

# 産業経済常任委員会 閉会中の調査報告

1、実施日 平成 29 年 1 月 25 日(水)～26(木)

## 2、視察先及び目的

- (1) 鳥取県倉吉市  
くらよし空き家バンク、空き家対策事業について
- (2) 鳥取県北栄町  
農業振興について

## 3、視察参加者

委員長	栗津寛三
副委員長	松井圭子
委員	矢野進次
委員	赤祖父裕美
委員	加藤貞一郎
委員	藤川みゆき
議長	松原栄樹
同行	建設経済部長
随行	議会事務局

### (1) 鳥取県倉吉市(くらよし空き家バンク、空き家対策事業)

大雪の中の視察研修となったが、JRによる遅れは約 1 時間程度で若干の短縮はあったものの、ほぼ予定通りの視察研修が行えた。

本年度より湖南省空家等対策計画を進めるにあたり、近年、全国的に深刻な問題でもあり、空き家バンクの運営や老朽化による諸問題を含め、先進地である倉吉市において学ばせていただいた。

先の地震により、空き家にも被害があったが、復興元年と位置付け頑張っているとの倉吉市議会議長の力強い決意のご挨拶があった。

古民家による「お試し住宅」の見学もあり、事前に通告しておいた質問について、倉吉市建設部建築住宅課と企画振興部地域づくり支援課から説明を交えながら応答があった。質疑応答は次の通りである。

以下問と答

問市営住宅の入居状況は。

答管理住宅 17 団地、管理戸数 519 戸です。昨年 10 月の地震で、被災者優先で提供しています。現時点では空きがない状態です。

問空き家を借り上げ、市営住宅として活用していますか。

答していません。今後も活用の予定はありません。

問空き家を公共的利活用していますか。

答公共的に利活用はしていませんが、民間が学生向けのシェアハウスを整備する費用について、500 万円を限度に補助しています。

問空き家対策の協議会は設置していますか。

答空き家対策特別措置法に基づく法定協議会は設置していません。空き家条例に基づく審議会は設置しています。

問固定資産税以外の空き家等に対する税金はありますか。

答空き家対策としての課税はありません。湖南省市における家屋敷税のようなものは課税していません。

問空き家バンクの活用、また、空き家自体の活用が全国的に伸びていませんが、平成 21 年にスタートした倉吉市の稼働率は。

答人口減少対策の一環で移住定住施策において「空き家バンク制度」を創設し、定住促進することで地域活性を図っています。本年度は市内全域を対象に空き家調査を実施して、活用可能な物件について、所有者の意向確認のうえ移住者等の受け皿の拡大を目論んでいます。空家バンク登録件数のうち成功率は 67.5%です。

問空き家バンク登録件数は。また、売却と賃貸に補助金制度はありますか。

答総登録件数 83 戸(売却 59 戸・賃貸 24 戸)です。補助金制度として、賃貸物件家賃等助成金事業・売買物件空家取得事業支援助成金・住宅支援制度・賃貸物件家財処分費助成金事業があります。

その後、街中と中山間地に 2 か所あるお試し住宅のうち、街中版「大鳥屋」の現地見学を行なった。

地区 120 年の古民家で、ワークショップ・トークショー・田舎体験ツアー・講座・映画会の企画運営をする基地局で、集まる・繋がる・広がる IJUcafe と学ぶ意味での IJU(いじゅう)大学の運営をされていた。

## (2) 鳥取県北栄町（農業振興）

冒頭に、松本町長から歓迎のご挨拶をいただき、先の震災においての湖南省への感謝の言葉をいただき研修をした。

資料をもとに農業振興の取組みについて説明があり、次いで質疑応答があった。

以下問と答

問 湖南省では農業従事者が減少していますが、農業振興のための特別な施策について。また、Uターン、Iターンの方で、農業に従事されている方はおられますか。その他、担い手の対策の取組みについて。

答 県の就農応援給付金を北栄町の農産物(大栄スイカ、らっきょうなど)に特化した農業振興を行なっています。新規就農者などには農業経営サポート事業の施策があります。

家族経営が中心で後継者も育っています(Uターン)。

娘婿が後継者となっている農家も多数あります(Iターン)。

問 機械導入への補助、貯蔵施設の建設に対する支援はありますか。

答 T P P 対策としての国県による、産地パワーアップ事業(ハード事業にも利用可能)を活用し支援しています。平成 29 年度には、砂丘らっきょうの共同乾燥・共同出荷施設が建設されます。

問 生産販売の取組みについて。販路拡充への取り組みについて。

答 J A が市場関係者を集め販売会議を行なっています。これにより計画的な生産と販路拡充となっています。

問 「農業経営基盤強化促進事業」を平成 18 年から施行されて 10 年経ちましたが、その具体的な成果はどのようなものでしょうか。

答 農業プラン強化促進基本構想(北栄町が目指す農業)を基軸にし、農業経営基盤強化促進事業を施行しましたが、農家に浸透していかない実態もあり、農業振興基本計画(農業まちづくり条例)を追加し、この 2 年は低コストハウスの導入などの具現化に向けたことで売り上げにも好影響があります。

問 「農地利用集積円滑化団体」や「農用地利用改善団体」などはどのような組織ですか。また、こうして組織化を推進されていますが、家内農業的にされている農業者の参画や反応はどのようなものでしょうか。

答 家内農業との連携はしがたい状況です。

問 過去 10 年間の新規就農者について。

答 営農相談員を配置しサポートしています。後継者のいない農家に新規農業者を繋いだりしています。

問 耕作放棄地への対応は。

答 砂丘地でのたばこ農家によるものです。らっきょうや白ねぎに手厚い支援を行うなどの対策を講じました。

北栄町は農業の町として、さまざまな補助金制度を活用し、さまざまな農業の振興をされていた。農地としての適性(たくさんの川が流れ水量も豊富)があったのもであった。他に真似のできないブランド力によるもの。

湖南省では、後継者不足による耕作放棄地が多くあり、考えさせられる研修となった。「ここぴあ」の地場産品も改めて検討が必要である。